

ほっかいどうの社会保障

2011年12月27日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

「自分の体を一番知っている」市立阿寒病院の存続を

12月15日、市立阿寒病院の存続を求める集会（主催「阿寒病院のこれからを考える会」）が開催されました。住民の関心は高く56人の参加で会場はいっぱいになりました。

当日は、市議会議員2人から、市議会での市長、阿寒行政センター長の答弁や民生福祉常任委員会での集中審議の経過等を報告しました。

釧路市は、突然、市立阿寒病院（35床）を2013年度から民営化（診療所化）する方針を打ち出しました。しかも、市民には非公開で、昨年からの特定の医療法人と有床診療所にするを前提に委託の話し合いを進めていたことなどが報告されました。

参加者は、民間委託ありきの市の姿勢に憤りをあらわしていました。集会の終わりに、多くの市民に存続署名を訴え、力をあつめて現行の阿寒病院の存続を求めていくことが確認されました。



患者さんの声：「今回ばかりは、だまっていられない。札幌で胃を全摘し、その後の診察を阿寒の先生に診てもらっている。自分の体をいちばん知っているのは阿寒の先生です。大病しても阿寒の病院でも充分診れるのです。皆さんもっと阿寒病院を利用しましょう。そして支えましょう」

市立阿寒病院について、2005年の合併協定では「市立病院の分院にする」とあり、2011年3月作成した「阿寒病院改革プラン」の中には、「阿寒病院の果たすべき役割は、不採算地区に対するプライマリな医療と急性期・回復期を脱した後の在宅支援のための入院機能を提供することである。阿寒病院の果たすべき役割として、特に重要な不採算地区の医療機能を維持するには、民間への移譲や運営委託には不安が残るため、直営方式での運営が必要である」とあります。

「医療費が高い」助成の拡大を！ 障道協が札幌市と懇談



27日、障害者の生活と権利を守る北海道連絡協議会（障道協）は下記の要望事項について札幌市と懇談が行われ、当事者から切実な要望が出されました。

障害者の交通費助成の拡充、重度心身障害者医療助成の拡充、障害者の住宅確保、介護保険優先ではなく障害者施策優先に、視力障害者の生活改善など・・・。

「医療費が高くて病院にかかれない」

精神障害者の医療費助成は、身体障害者（3級まで入院・外来とも）や知的障害者と違い、精神障害

者保健福祉手帳1級で外来分だけです。参加者からは「夫婦二人で精神障害者。眼科、糖尿病、腎臓などでかかっているが、3万円かかる時もあります。非課税世帯なので、とても生活できない。是非拡充してください」「入院する時、保証金が5万円の病院もあります（生活保護の場合は5000円）。収入が少なくとても入院できない」「先日、4週間入院したが18万円かかった」「差別を受けていると感じる」など切実な声が出されました。

市側は「要望については切実な要望なので改善していきたいと思いますが、北海道の補助事業なので、道に拡充を求めています」という回答でした。

最後に「命に関わる問題です。精神分の医療費助成は市全体の1%にも満たない（2600万円/53億700万円=0.5%）、余りにも低い。是非、札幌市としても改善してほしい」と要望しました。